



あさひやまどうぶつえんニュース
ASAHIYAMA ZOO NEWS

モユク★カムイ

☆モユク・カムイとはアイヌ語で
「エゾタヌキ」のことです。



シベリアオオヤマネコ
Felis lynx lynx

NO.

27

JAN
1992

表紙のこぼし

シベリアオオヤマネコ

太くて長いあし、
しなやかなもの腰、
魅力的な瞳、
なぜかヒトの女性を
連想させるんだなあ

巻もくじ

- 2 ほっと ひとPhot
- 3 新・どうぶつ解析考 - 花札の冬
- 4.5 「動物ってなんだろう？」
第4回「サル」その4 類人猿
- 6.7 冬の動物園
- 8 動物園放浪記 - ちあきの巻④ -
Vet News (動物病院から)
- 9 飼育研究レポート
- 新しいサル山 -
- 10 ゲンちゃんの追求コーナー
- ウサギの耳はなぜ長いの -
クイズ
- 11 飼育日誌
お知らせ



新・どうぶつ解析考

花札の冬

11月 柳に雨

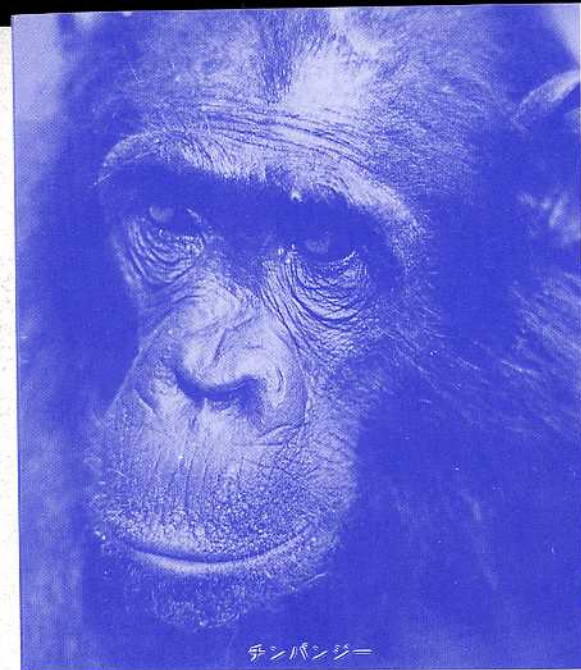
旭川は寒いところで、11月ともなれば雪景色
しかし、このところ地球温暖化のせいか
雨も珍しくはないが、さすがにカエルは冬眠中

12月 桐に鳳凰

さすがに師走の声を聞くと、白一色となる
北海道では雪を冠ったニレの大木に
シロフクロウが止まっている

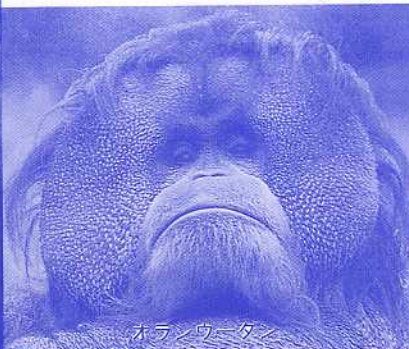
1月 松に鶴

まさに北海道。
タンチョウは残念ながら旭川周辺には生息しない
大雪山のエゾマツの樹海をタンチョウが飛ぶ
思いえがくだけでも、すばらしい



チンパンジー

どうぶつ
 なんだろ?
 さる



オランウータン



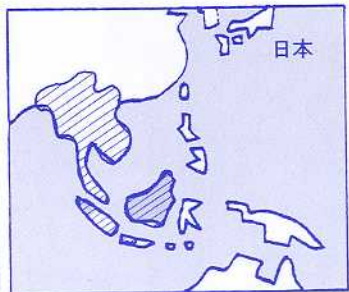
シロテナガザル

その4
 ヒトに似ている
 サルの仲間

るい じん えん
類人猿



ゴリラ
 チンパンジー



オランウータン
 テナガザル

最も人に近いサルの仲間、尾がありません。大型のオランウータン科と小型のテナガザル科の2科に分けられます。

○オランウータン科

アジアにオランウータン、アフリカにはビッグミーチンパンジーとチンパンジー、ゴリラの3種で合計4種がいます。

オランウータンは樹上性、2種のチンパンジーは半樹上地上性、ゴリラは地上性と生活の仕方はさまざまです。地上での歩行は特徴的で、手を軽く握り、指の背を地面につけて歩きます(ナックル歩行)。

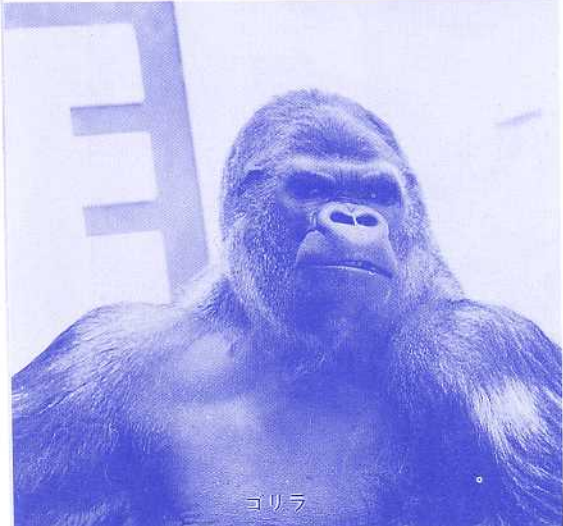
食べ物は大体が植物食ですが、チンパンジーは肉食もします。歯の数はヒトと同じで32本です。下顎の臼歯は5つの咬頭を持つY-5型で、ヒトと共通しており、オランウータン科の特徴となっています。

○テナガザル科

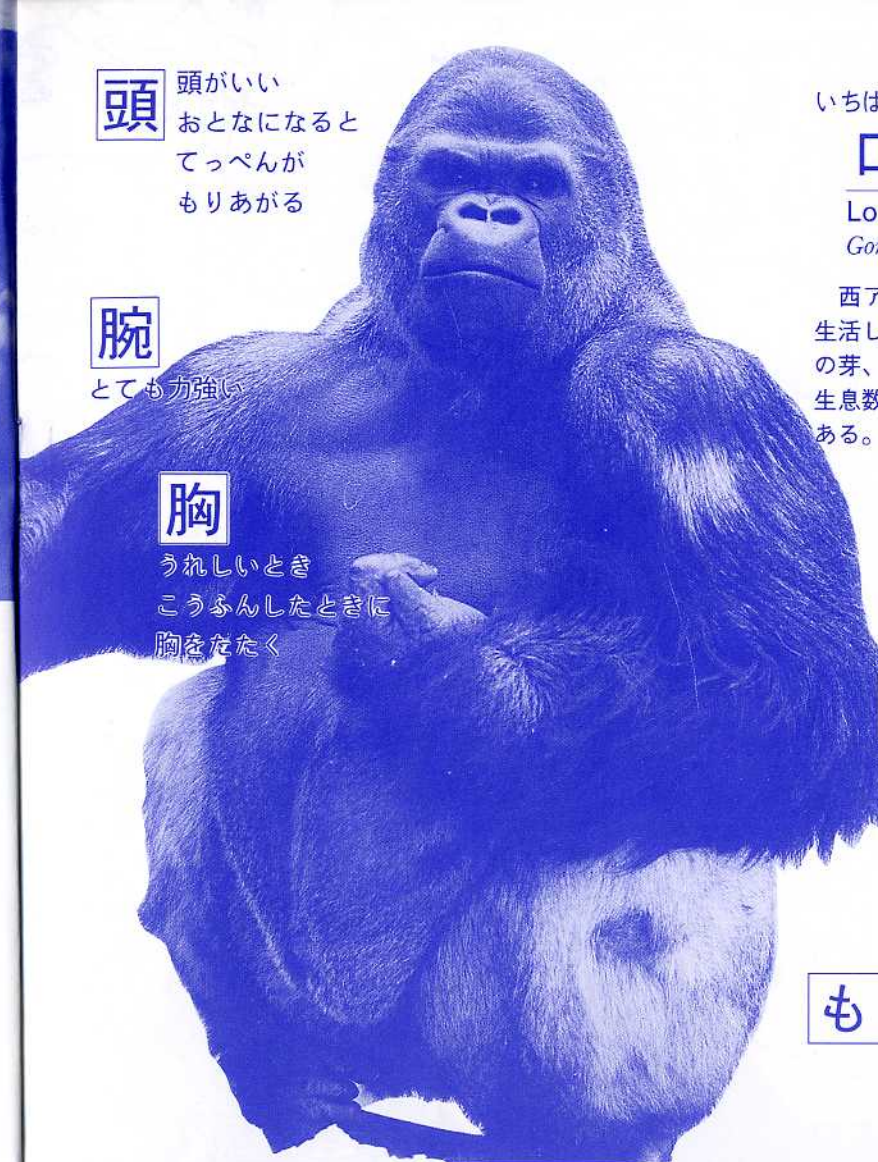
東南アジアの原生林にすみ、完全な樹上生活をします。ニホンザルの仲間にある「しりだこ」があります。

木の間を移動するときは腕渡り(ブラキエーション)で、実に素早く飛び回ることができますが、地上では長い両手を上げてバランスをとりながら、2足歩行でヨタヨタと歩きます。

ニホンザルのような群れはつくらず、オス1頭、メス1頭とその子どもたちの家族群で生活しています。食べ物は主に植物食ですが、たまに小鳥や鳥の卵なども食べます。歯の数はヒトと同じ32本です。



ゴリラ



頭 頭がいい
 おとなになると
 てっぺんが
 もりあがる

腕
 とても力強い

胸
 うれしいとき
 こうふんしたときに
 胸をたたく

いちばん大きなサル
ローランドゴリラ

Lowland Gorilla
Gorilla gorilla gorilla

西アフリカの森林に小さな群れをつくって生活している。シダ、セロリ、タケノコ、木の芽、くだものなど植物しか食べない。生息数は年々減ってきてとても危険な状態にある。

背 おとなのオスは
 背中毛が
 銀色になる
 (シルバーバック)

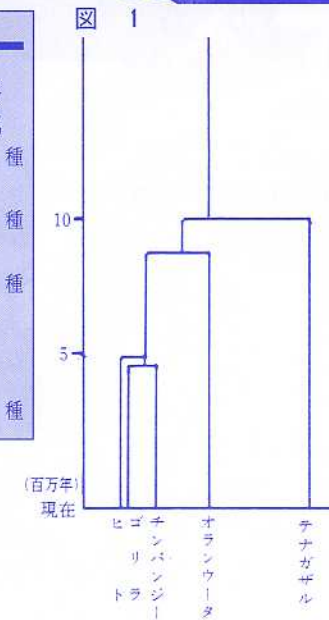
手 指をおって歩く
 ナックル歩行

体重 おとなのオス
 約200kg
 メス130kg

もも 太くて
 がんじょう
 プロレスラー
 みたいだ

●分類

オランウータン科	1 種
オランウータン属	1 種
チンパンジー属	2 種
ゴリラ属	1 種
テナガザル科	6 種
テナガザル属	6 種



●ヒトと類人猿の間

10数年前までは、ヒトが類人猿の祖先と分かれたのは2000万年前頃と言われ、1500万年前頃には、ゴマビテクスがヒトの祖先と思われていた。

ところが、最近のDNAに関する研究によれば、類人猿と人が分岐したのはなんと500万年前のことだといわれ、類人猿の祖先型から、先ずテナガザルが分岐し、その後オランウータンが分かれ、ずっと後になって、ゴリラ、チンパンジー、ヒトの分化が起こったらしい。現在ではヒト科の系統が分離した後にゴリラ、チンパンジー共通の祖先が、一時的に存在したことは確かである、という説が広まりつつある。(図1)

一方、古い時代のヒトの化石の発見は、どんどんおこり、タンザニアで発見された化石骨は300万~360万年前のもので、さらに400万~500万年前の化石の発見も十分考えられるという。

また、類人猿の祖先型からヒト科が分かれ、そこからヒト、チンパンジー、ゴリラがそれぞれ分かれてきたという説もある。その様なことを考えながら、毎日、彼らと接していると複雑な気持ちになってしまう。われわれのしていることをじっと見ているわけだから……

「ヒトの進化」(ロジャー・ウィン)より参考

